

港区立港南小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、話や文章で適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」については、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することに課題がある。</p> <p>・「読むこと」については、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。</p> <p>・情景についての理解が低いため、物語への感想がいつも同じような言葉になる。叙述に基づいた理由を表現できず、自分の思いのみで答えてしまうことが多い。</p> <p>・「書くこと」については、問いに対して指定された題意や字数と異なる形で書いてしまう児童が多い。また、文章を組み立てる技能が定着していない。</p> <p>・ひらがなやカタカナの書き順を間違えたり、書字が雑になってしまったりすることがある。</p> <p>・前年度に学習した配当漢字を読むことはできているが、書くことに課題がある。また、定着している児童とそうでない児童の二極化が見られる。</p>	<p>・思考ツールを用いたり対話型のスピーチを行ったりすることで、自分の考えを的確に表現するだけでなく、相手の伝えたいことを想像しながら聞くことができるようにしていく。また、書く活動や伝え合う活動を繰り返し行い、協働的に学ぶ機会の充実を図る。</p> <p>・授業の中で語彙を増やすために、辞典を活用したり、詩の朗読や俳句、短歌に取り組んだりして言語感覚を養うとともに、言葉を尊重する態度を養う。また、配当漢字を定着させる等、基礎・基本を大切にしていく。</p> <p>・朝読書の時間を確保するなど、日常の中で文章に触れさせる機会を増やす。その際、学習した内容に関連した本を図書館支援員や担任で読み聞かせをするなど、本と日常的に関わる機会を設け、読書に興味関心をもてるようにする。</p> <p>・文章を書き出す前に、はじめ・中・終わりで何伝えたいのかが分かるようなワークシートを活用する。</p> <p>・低学年のうちから鉛筆の持ち方や姿勢など、書字の基礎基本を丁寧に指導し、身に付けられるようにする。GSTと連携し、書字に関して課題がある児童には個別に対応する。</p> <p>・漢字の学習の定着を図るために、小テストを実施し、間違えた漢字を繰り返し練習させる。</p> <p>・対象児童に対しては学習支援員と協力しながら机間指導を行い、個別指導を充実させる。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<p>(1) 社会生活について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>・方角など、地図の読み方が定着していない。また、日本や世界の国土や地理について知識の習得に課題が見られるとともに、学んだ知識を活用して</p>	<p>・地図に関する知識・技能が低いので、ワークテストに取り組みせたり、比較させたりしながら、学習を展開していく。</p> <p>・学習問題や本時のめあてを丁寧に確認し、学習内容を十分に理解させた上で展開する。本</p>

<p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握したりして、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>	<p>説明することが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本や ICT を活用し、情報収集をする力が身に付いてきている。一方で、たくさんの情報の中から課題解決に必要な情報を的確に判断し、選ぶことに課題が見られる。 調べた内容について特徴を整理し、目的に応じてまとめることや、自分の考えを文章で表現することに課題がある。 政治のしくみに関心が低く、自分事として捉えようとする姿勢の低さに課題が見られる。 	<p>や ICT を活用した調べる活動では、必要な情報を判断できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を分析したり、他者と自分の考えの相違に気付かせたりするなど学習したことを定着・応用する力を高める指導を行う。 まとめる活動では、単元によって個人、小集団など、様々な形式をとる。他者が調べたり、まとめたりした内容を知ること、友達の考え方や表現のよさに気付かせ、思考力を高められるようにする。 学習への意欲向上を目指し、資料の提示や疑似体験などを有効に利用する。 政治のしくみに関心が低いことに伴い、知識・技能が低い。そのため、身近なものから例を挙げて資料を提示したり、ワークテストに取り組みせたりして、学習を展開していく。
---	--	---

育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<p>(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国学習状況調査の結果は、全国平均・東京都平均ともに上回っており、既習事項の定着率は高いといえる。 練習問題やワークシートの正答率や、単元末テストの点数から、基礎的・基本的な問題解決力の向上がうかがえる。一方、思考力・判断力・表現力を使う問題の回答率が低いことは課題であり、問題文を読んで、立式することに苦手意識をもつ傾向がある。 具体物の活用や、考え方を共有する活動を通して、基礎的・基本的な数量や図形の性質を見いだし、問題を多角的に捉えることができている。一方で、日常の事象を数理的に捉え、問題を筋道立てて考察する力に課題が見られる。 具体物や日常生活と関連付けた学習の理解に課題が見られ 	<ul style="list-style-type: none"> 導入の場面は、学習内容に関連した具体物や動画、イラストを用いて行うことで、算数に苦手意識のある児童でも意欲的に取り組みやすくなるよう工夫する。 自力解決の場面では、一人一つまたは班に一つ手で触れる具体物を用意し、直接ものに触れながら考えられるようにする。 自力解決の場面では、答えを求められることに重点を置かず、問題解決までの過程に着目するよう言葉掛けを行う。 集団検討の場面では、「友達の考え」について、他の児童に問い返したり、ノートやワークシートに書かせたりすることで、様々な考え方に触れる機会を増やす。 学習のまとめの場面は、学習内容を振り返るだけでなく、学んだことをどのように生かせるか考えさせるような言葉掛けや、ノートに記述する機会を設ける。

算数

	<p>養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>	<p>る。</p> <p>・答えを求められると、他の考え方や解法はないか考えたり、学んだことを学習に活かそうとしたりする態度の育成が課題である。</p>	
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>(1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。</p> <p>(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>	<p>・「子葉」「昆虫」「成虫」などの用語について覚えきれていない児童が多い。</p> <p>・観察や実験について、器具を用いて正しい手順で行うことはできるが、観察したものや器具の用語を覚えることに課題がある。</p> <p>・問題を解決するための方法について考え、具体的に実験計画を立てることに課題が見られる。</p> <p>・観察、実験結果をまとめて考察することや、考えたことを表現することに課題が見られる。</p> <p>・問題を見いだす力はまだ不十分と言える。</p> <p>・自然の事物、現象について様々な視点から関連付けて考えることができているが、必要に応じて条件の制御をすることについての理解が不十分である。</p> <p>・A「物質・エネルギー」B「生命・地球」領域ともに、児童による理解度に個人差が見られる。</p>	<p>・理科的用語、観察、実験などの技能を高めるために、生物や植物では、探したり育てたりする活動を取り入れていく。</p> <p>・観察、実験などの技能を高めるために、実験に使う器具の使い方を丁寧な指導した上で実験器具に触れる機会を増やす。</p> <p>・問題を解決するためにどのような実験が必要かを考えさせ、実験計画を立てる機会を多く取り入れる。</p> <p>・実験計画を立てる際には、条件制御について話し合わせる。</p> <p>・実験結果から分かったことや気付いたことについて話し合う時間を十分に取り、話型を示すことで、考察する力やそれらを書いて表現する力を高めさせる。</p> <p>・児童の経験や視覚的資料を活用して問題が見いだせるような導入の工夫をする。児童が意見を出し合いながら問題をつくっていく授業を展開していく。</p> <p>・日常的に理科の見方や考え方につながるような話題を提示したり、身近な現象を取り扱ったりするなどして興味をもたせていく。</p> <p>・ICT機器を効果的に活用して児童の理解を深め、実験から結論を得たことについて、そこからさらに気付きや疑問を考える時間をとるようにする。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	(1) 具体的な活動や体験を通して、感じたり気付いたり、わかったり、できるようになったりする。	・身の回りにある自然体験ができる機会が少ない。	・本校の児童がどのような生活経験や体験をしてきたのかを的確に把握し実態をつかむ。 ・地域の特色、児童が接することのできる物的・人的資源を把握する。
	(2) 生活の中で気付いたことやできるようになったことなどを使って、繰り返し考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする力を養う。	・良い気付きがあるにもかかわらず、うまく表現できていない児童がいる。	・活動では、思考する→試す→工夫する、を繰り返して行えるような場と時間の確保をしていく。また、表現する場の設定をする。 ・一人ではできないことは友達と協力して行うことで、新たな気付きが生まれるようにし、友達と協働することのよさを実感できるようにする。
	(3) 様々な活動を通して、感じたことや気付いたことを生かして、より良い生活を営もうとする態度を養う。	・気付きや学びを次につなげることが難しい児童がいる。	・生活科での気付きを次の学習でも生かせるように、児童の発言、記録カード、作品、写真等を用いて振り返りをする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	・歌唱表現について、自分の歌声を大切にしながら楽しく歌う姿が育っているが、必要以上に大きな声で自己主張の強い歌い方をしてしまう傾向がある。 ・音楽表現をするために必要な発声や基本的なリコーダーの演奏方法は身に付いているが、音楽の構造に気付いたり、曲想の変化に気付いたりすることに課題がある。	・歌唱表現では、歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付き、友達と互いの歌声を聴き合って調和のとれた声を合わせて歌うことができるようにしていく。また、正しい発声法と、目指す姿をやってみせることを繰り返し練習することで、曲想にあった表現ができるようにする。 ・歌唱表現では、工夫した表現を互いに聴き合いながら、思いをもって歌うことができたことを価値付け、それぞれの表現のよさを感じ取る体験を積み重ねていく。
	(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。	・器楽表現について、範奏を聴いてリズムを摸奏する活動に意欲的であるが、リズムが不確かであり、拍の感覚を身に付けていくことが課題である。	・リズムについての学習では、言葉や身の回りの音に含まれているリズム・パターンを扱ったり、音楽に合わせて手拍子をしたり歩いたりすることができるような、一定の間隔で刻まれる音楽を扱ったりして拍の感覚を身に付けていく。
	(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽		

	<p>に対する感性をはぐくむとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽分野において、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しているが、表現するために必要な技能については個人差が大きく、友達といっしょに合わせて表現を上げていくことに課題がある。 ・鍵盤ハーモニカの学習について、運指の正確さに課題のある児童がいる。技能差が大きい。 ・鑑賞分野においては、聴く視点に着目して音楽を味わって聴くことができるが、譜を読む力に個人差があり、鑑賞したことを発展させて工夫して表現することに課題がある。 ・歌唱表現から器楽表現、鑑賞活動から器楽表現など、音楽との関わり方を工夫することで、音楽に親しむ態度が養われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの学習では、木琴、鉄琴などの鍵盤打楽器を取り入れながら様々な楽器に触れる機会を多く設け、旋律を演奏するよさや面白さを感じさせながら技能を身に付けていく。また、階名唱を摸唱することで旋律に慣れるとともに、運指の正確さにこだわり過ぎず、フレーズ感やリズム感を育て、全体の中で調和させて演奏できるようにする。 ・器楽表現では、小物打楽器に加え、諸外国の打楽器に触れているいろいろな音を出す経験を通して、自分や友達が担当している楽器の音色の違いを聴きながら、拍を意識して演奏することができるようにする。 ・歌詞譜やドレミ譜だけでなく、楽譜を見ることで、旋律の反復や変化に気付かせ、曲想と音楽の構造などとの関わりについて学習していく。 ・友達と互いに音を聴き合うことで、どのような工夫をすると表現したいことが伝わるかを発問して学習していくようにする。 ・学習を進めるにあたり、発声の仕方、立ち方、リコーダーの指づかいの確認をすることで基本的な技能を身に付けていく。 ・友達と互いに音を聴き合うことで、表したい音楽表現をするために、不十分な技能は何なのかを発問して学習していくようにする。 ・鑑賞で身に付けた聴く力を生かして、気付いた音楽のよさを表現の工夫につなげていくようにする。 ・学習する題材の中で、歌唱表現、器楽表現、鑑賞活動のつながりを考えて指導していく。
--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることがで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ものをつくったり、表したりする経験や技能に差がある。 ・制作に対する意欲が高い児童が多くいる一方で、技能が低く、細かい部分まで色を塗れなかったり、作品の仕上げが雑になったり、時間内に終えることのできない児童がいる。 ・材料や用具を正しく使い、楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の正しい使い方や置き方、片付け方の留意点などを指導することで、用具の扱い方に関する理解の定着を図る。 ・参考作品を提示したり活動中に児童の作品を見合う場を設定したりすることで、自分の作品の表し方に工夫を取り入れたり、考えを深めたりして、創造的に表現活動ができるように促す。 ・ICTを活用し、材料や用具の使い方の動画を視聴する等して、引き続き安全に活動し、児

	<p>きるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	<p>しみながら表現することができる児童が多い。しかし、表し方を工夫したり考えを深めて活動を充実させたりすることが弱い児童もいるため、より工夫を取り入れること、活動を充実させることが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造的に活動できる児童がいる反面、題材によっては作品制作を最後までやり遂げられない児童がいる。 ・見通しをもって活動することが苦手な児童が多い。 ・自分なりの思いをもって表現することが苦手な児童がおり、教員の提示したものや、教科書の作品、友達の作品を真似してしまう児童がいる。また、持ち物が揃わない児童がいる。 	<p>童が工夫を取り入れて作品づくりができるようにする。材料・用具の準備や片付けについて、基本的な流れを説明し、都度確認をして定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを取り入れるなどして、自分の思いや考えを整理できる工夫をする。学習のめあてや活動内容を視覚化し、見通しをもたせ、毎時間にやるべきことを各自に自覚させる。 ・鑑賞等で、友達の作品のよさについてお互いに伝え合う対話的な活動の場を取り入れる。 ・本制作に入る前にかんたんなスケッチやワークシートを取り入れる等して、自分の思いや考えを整理できる工夫をする。机間指導から、児童の思いを汲み取り活動に取り組めるよう助言等を行う。 ・図工バッグに入れておくものをポスターにして各クラスに掲示する。特別な材料が必要な場合は図工だよりを発行する等して児童の意識を高め、各担任から児童への声掛けも行っていく。
--	---	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<p>(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p>	<p>・「生活の営みに関わる見方考え方」を働かせるために、成果や改善点、自分の家庭ではどのような実践ができるのか等の視点に基づいた振り返りが十分ではない児童がいるため、必ず行うことができるように促していく必要がある。</p> <p>・調理の学習では、生活経験に差があり、児童数も多いため安全管理や実技回数の確保が課題である。</p> <p>・安全面に注意が必要な学習（ミシン・裁縫等）では、作品を完成させることが目的化している児童もいる。</p>	<p>・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>・調理の学習では、個々の実践力を高めるために一人調理やペア調理の機会を増やし、経験できることの多い実習にする。</p> <p>・日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>・安全面に注意が必要な学習（ミシン・裁縫等）では、必ずペアで教え合い学習をさせ、個人の作品製作だけを目標とするのではなく、安</p>

	<p>(3) 家庭生活を大切に する心情を育み、 家族や地域の人々 との関わりを考 え、家族の一員と して、生活をより よくしようと工夫 する実践的な態度 を養う。</p>		<p>全に実習が進むことを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体 育	<p>(1) その特性に応じた 各種の運動の行い 方及び身近な生活 における健康・安 全について理解す るとともに、基本 的な動きや技能を 身に付けるように する。</p> <p>(2) 運動や健康につ いての自己の課題 を見付け、その解 決に向けて思考し 判断するとともに、 他者に伝える力を 養う。</p> <p>(3) 運動に親しむと ともに健康の保持 増進と体力の向上 を目指し、楽しく 明るい生活を営む 態度を養う。</p>	<p>・技能を高めるための手立てに 課題がある。技能の個人差に 応じた場の設定や声掛けが十 分ではない。</p> <p>・体力の低下傾向がある。特に 投力や走力が課題であり、そ れを解決するための運動時 間、運動場所の確保が困難で ある。</p> <p>・学習資料を活用し、めあてに 対する振り返りを重点的に行 うことで、毎時間の指導改善 と児童の学習改善を図ってい く。</p> <p>・多くの児童が運動に意欲的な 傾向があるが、苦手意識があ る児童もいる。運動や遊びの 経験に大きな差がある。</p> <p>・勝敗に対して素直に受け入れ られない場合がある。</p>	<p>・各種の運動の特性を味わわせるために、運動 の行い方を工夫したり、規則を工夫したりす る。各種の運動に合わせた実技研修を行うこ とで、指導法の改善を図る。</p> <p>・児童の気付きを生かして運動の場や発問を 工夫することで、各種の運動遊びの特性を味 わわせることができるようにする。</p> <p>・年間指導計画に基づき、様々な特性をもつ運 動に取り組みさせる。</p> <p>・学習資料を共有・活用し、めあてに対する振 り返りを重点的に行うことで、毎時間の指導 改善と児童の学習改善を図っていく。</p> <p>・ゲーム間など、活動の途中で課題について交 流する時間を取ることで、課題を解決するた めの方法について具体的に考えさせる。</p> <p>・学習の振り返りの時間を確保することで、よ りよい運動の仕方について共有することや、 チームや学級全体で課題を解決しようとす る態度を養う。</p> <p>・運動に意欲的でない児童や運動が苦手な児 童には、個別に声をかけたり、配慮したりす ることで、運動にすすんで取り組むことが できるようにする。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<p>(1) 日本語と外国語との違いを理解し、外国語の音声や文字、文構造や基本的な表現に慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けられるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるようにする。</p> <p>(3) 異文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語でコミュニケーションをとることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語を「聞く」力は高い。一方で、学習した単語や表現の積み重ねが見られず、学習した表現を使って、やり取りをすることに困難を示す児童もいる。中には、低学年から外国語を「話す」ことに対して苦手意識をもっており、活動に消極的になっている児童もいる。 高学年になるにつれて、「話す」活動において、学級全体の前で発表するなどの活動に対して抵抗感があり、上手く話せない児童が増えてくる。 「話す（やりとり）」活動において、コミュニケーションの目的意識を感じられず、1～2往復程度でやり取りが終わってしまうなど、会話が続かない児童がいる。 「書く」ことにおいて、4線の正しい位置に書くことを意識させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1～4年生は担任と Native Teacher (NT)、5、6年生は専科と NT で、TT 指導を行っている。 児童にとって身近で興味深い単元目標や単元計画を設定し、授業を実施する。 児童がすすんで「伝えたい、話したい、聞きたい」と思えるような目的・場面・状況を明確にした言語活動を行う。また、最終ゴールまでの見通しをもてるようにし、ゴールを意識しながら毎時間のめあてを立てられるようにする。 Teacher's Talk 担任と NT、専科と NT のやり取りの場面を多く取り入れることで、児童が英語を耳にする時間を増やす。 Small Talk のように、教師—児童、児童—児童で対話をする場面を多く設定する。 低学年においては歌やゲーム、友達と関わる活動などを多く取り入れることで、楽しみながら本時のキーワードを習得できるようにする。 やりとりの間に中間指導を丁寧に行う。よいコミュニケーションを価値付けたり、言い方のわからないものを確かめたりすることで、会話が活発に行われるようにする。 相手意識をもたせる声掛け、指導を行う。 相手意識をもたせるために clear voice, eye contact, gesture などの掲示物常時掲示をする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<p>(1) よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他者の心情を理解しようとしたり、自己の言動を客観的に振り返ったりすることが難しい児童もいる。また、自立した生活態度をもっているとは言い難い。 道徳的価値について自分事としては考えられず、本音ではなく建前の意見を述べる児童が多い。実生活につなげたり自分事として捉えたりすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心、意欲を向上させるため、導入部分で事前アンケートを活用したり、ICT 機器を活用して資料提示を行ったりするなどの工夫をする。 児童が自己の生き方について考えを深められるように発問の精選を行い、価値理解と同時に人間理解や他者理解も深めていけるようにする。 物事を多面的・多角的に考えさせるために、話し合い活動を取り入れていく。また、実際の場面を想定した役割演技やロールプレイの活動を増やす。

	<p>実践意欲と態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について理解している様子が授業中の発言や記録から見られている。一方で、実践意欲をもってよりよい生き方をしていこうとする態度が見られていない。道徳的価値の理解を深めることで、自己の生き方についての考えを深めさせ、実践意欲を高めていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で実践している様子が見られた場合は積極的に声を掛けたり、全体で共有したりすることで、実践意欲を高めさせる。 ・自分を見つめ、考えを深めるために、ワークシートを活用する。
--	---------------------	--	--

	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分本位に考えてしまい、他者意識をもつことに課題がある。自分の思いや願いを中心に、合意形成を図ることはできるが、一部の児童のみで話し合っている様子がある。 ・異学年交流活動では、高学年として下学年のために計画を立てたり、活動のサポートをしたりする力が育っているが、よりよい活動のために話し合うなど、他者と意見を交わしながら創意工夫しようとする態度を養う必要がある。 ・学級会や行事に向けて、事前に目標を立てることはできるが、目標の達成に向けて継続的に取り組むことが課題である。 ・目標の達成度合いを振り返る経験が乏しく、次に生かそうとする態度が十分に養われていない。 ・低、中学年は全体で集合して執り行う式への参加経験が少なく、集団への所属感が弱い。併せて、協働の経験も少なく、力を合わせて大きなものを作り出すことの達成感を得ることや喜びを感じることを体験している児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会の進め方を伝えたり、各教科で他者と交流する場を設定することで、他者の考えを知ったり、自分の考えを伝えたりする場を充実させる。 ・クラス遊びや学級活動の機会を増やし、帰属意識を高める。加えて、当番や係活動で集団としての意識を高める。一人ひとりに役割をもたせ、みんなの役に立っている喜びを味わわせる。 ・学級会や行事に向けて、事前に目標を立てさせることで自己を振り返る視点をもたせる。また、事後指導では、学年や自己の目標を振り返る時間を確保し、次回の活動につなげられるように指導をする。 ・月に1回のフレンドリータイム(異学年交流)では、高学年として下学年が楽しめるような遊びの計画を立てたり、遊びの内容について交流したり、事前に学年に応じたためあてをもって取り組ませたりすることで、異学年交流の活動を充実させる。そうすることで、よりよい異学年交流について学ばせる。 ・委員会活動では、児童と担当教員で内容を検討している。動画や掲示物、校内放送などを活用して校内へ呼び掛けをするなど、工夫して取り組んでいるため継続する。 ・キャリア教育を充実させる。キャリア・パスポートを学期に1部程度作成し、ファイリングすることで、6年間を通して自己の生き方についての考えを深められるようにする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>(1) 課題の解決に必要な知識・技能を発揮するとともに、地域のよさや特徴を見つめ直し、探究的な学習のよさに気付く。</p> <p>(2) 地域の実社会・実生活の問題から課題を見だし、その解決に向けて情報を集め、情報を整理したり分析したりすることで自分の考えをもち、理由を明確にしてまとめ、相手や目的に応じて、表現する力を身に付ける。</p> <p>(3) 主体的・協働的に学習に取り組むとともに、友達と互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために探究的に学習を進めることを通して、自己の生き方を考えたり、すすんで社会に参画しようとしたりする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に基づく概念的知識及び探究的学習の技能を系統的に身に付ける必要がある。 ・与えられた課題をこなすことに慣れており、児童が自ら課題を設定する力が身についていない。 ・友達と建設的な話し合いをすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識が連続発展できるような支援を重視する。 ・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。 ・探究の学習過程が繰り返されるような単元づくりを行う。 ・地域の人材・教材開発に努め、児童の思いや願いに合わせた単元づくりを行う。 ・資質・能力面での教科との関連的な指導を行う。 ・単元で活用した資料や情報、指導案等は単元ごとにまとめて引き継ぐ。 ・学年間で学級の学習状況などを定期的に共有する。